

国語	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
1 年	- 話すこと・聞くことでは、伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫すること、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞くことができない。 - 書くことでは、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書くことや、文章を読み返し、間違いを正したり語と語や文の続き方を確かめることができない。 - 読むことでは、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができない。	- 適切な声の大きさや速さで話をする力。また、相手の知らせたいことや聞きたいことを落とさずに最後まで聞く力。 - 自分の思いを正しく書き表す力。 - 聞かれていることを理解し、文章中から適切に選び出す力。また、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力。	- 声のものさしを活用し、適切な声の大きさを確認できるようにする。 - 話している人の方を向き、聞くことを習慣付ける。 - 平仮名や片仮名、既習漢字を文中で正しく使い、文の終わりに句点を打つことができるよう、自分の文章を見直す観点を提示する。 - 目当てや問題文をきちんと読む。 - 音読をして、文章が児童の中に入っていくようにする。また、文章中の表現に着目させる。

1 年	1 組	- 話すこと・聞くことでは、相手意識をもった声の大きさになっていない。また、聞く際も、話し手が誰なのか意識できていない。 - 書くことでは、句点の打ち忘れ、「は・を・へ」の間違い、促音の位置の間違いが多い。 - 読むことでは、聞かれていることを読み違えていて、正確に選び出すことができない。また、聞かれていることが何か理解できていないこともある。 - 基本的な平仮名や片仮名を正しく書くことができない。	- 適切な声の大きさや速さで話をする力。また、話し手を意識し、最後まで聞く力。 - 自分の思いを書き表した上で、見返し、正しく直す力。 - 聞かれていることを理解し、文章中から適切に選び出す力。また、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力。	- 声のものさしを活用し、適切な声の大きさを確認できるようにる。 - 話をしている人の方を向き、聞くこと、話し手が聞き手に向かって話すことを習慣付ける。 - 平仮名や片仮名、既習漢字を文中で正しく使い、文の終わりに句点を打つことができるよう、自分の文章を見直す観点を提示する。 - 問題文で何が聞かれているのかを確認させる。「何が」「誰が」などの言葉に着目させる。 - 追い読みを適宜取り入れる。また、文章中の表現に着目させる。
1 年	2 組	- 話すこと・聞くことでは、相手意識をもった声の大きさになっていない。また、聞く際も、話し手が誰なのか意識できていない。 - 書くことでは、句点の打ち忘れ、「は・を・へ」の間違い、促音の位置の間違いが多い。 - 読むことでは、聞かれていることを読み違えていて、正確に選び出すことができない。	- 適切な声の大きさや速さで話をする力。また、話し手を意識し、最後まで聞く力。 - 自分の思いを書き表した上で、見返し、正しく直す力。 - 聞かれていることを理解し、文章中から適切に選び出す力。また、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力。	- 声のものさしを活用し、適切な声の大きさを確認できるようにる。 - 話をしている人の方を向き、聞くこと、話し手が聞き手に向かって話すことを習慣付ける。 - 平仮名や片仮名、既習漢字を文中で正しく使い、文の終わりに句点を打つことができるよう、自分の文章を見直す観点を提示する。 - 問題文で何が聞かれているのかを確認させる。 - 追い読みを適宜取り入れる。また、文章中の表現に着目させる。

算数	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
1 年	- 数と計算では、具体物を用いて、答えを導き出すことができる。しかし、１０の合成・分解が未だ具体物を用いないとできず、加法・減法の計算の際に困難さが見られる。また、十を単位とした数の見方が定着しておらず、十といくつに分解することができない。 - 測定では、時刻を読む際に長針と短針が表すものの理解が曖昧で、定着していない。	- 既習事項を生かして、自ら問題を解決し、表す力。 - 基本的な加法と減法（繰り上がり・繰り下がりも含む）を確実に行うことができる力。	- 問題を読み、前時との違いを児童に確認させた上で、問題解決の大事な観点を提示し、表現させる。自ら表現することが難しい児童には、文型を提示し、穴埋めをさせたり、問題解決のヒントを教員が提示する時間をとる。 - 授業の最初に簡単な計算問題や計算カードを用いた計算練習を行う。

1 年	1 組	- 既習事項を用いて、自分の考えをもち、発表する力。 - 基本的な加法と減法（繰り上がり・繰り下がりも含む）を具体物を用いずに確実に行うことができる力。	- 問題を読み、前時との違いを児童に確認させた上で、問題解決の大事な観点を提示し、表現させる。自ら表現することが難しい児童には、文型を提示し、穴埋めをさせたり、問題解決のヒントを教員が提示する時間をとる。また、ペア活動も取り入れて、相手に説明する力を付ける。 - 授業の最初に簡単な計算問題や計算カードを用いた計算練習を行う。１０の合成分解の練習をさせる。
1 年	2 組	- 既習事項を用いて、自分の考えをもち、発表する力。 - 基本的な加法と減法（繰り上がり・繰り下がりも含む）を具体物を用いずに確実に行うことができる力。	- 問題を読み、前時との違いを児童に確認させた上で、問題解決の大事な観点を提示し、表現させる。自ら表現することが難しい児童には、文型を提示し、穴埋めをさせたり、問題解決のヒントを教員が提示する時間をとる。また、ペア活動も取り入れて、相手に説明する力を付ける。 - 授業の最初に簡単な計算問題や計算カードを用いた計算練習を行う。